

ナイルワニがバツハを聴く

寝つきの悪い僕は、最近オペラ間奏曲の「マドンナの宝石」を聴きながら寝床に入ると、スツと眠れるようになったことに驚いている。

そこで思ったのは、「生物と音楽」の関係で、以前から気になっていたことでした。

植物と音楽の関係については、十九世紀中ごろのダーウィン以来、世界の学者が取り組んできていることは知られています。

その百年後、インドやアメリカの植物学者から、音楽を聴かせると植物の気孔が大きくなり、通常よりも発芽や生育が早くなるという研究が報告され、実際それを作物などに応用している例が多くありますね。

アメリカで、高齢の女性が復学して大学側と取り組んだ研究例で、植物に音楽を聴かせて反応を見た結果が、全米中を論争に巻き込んだという話も有名です。

研究では、二つの温室に、カボチャ・トウモロコシ・ペチュニア・キンセンカ・百日草を植え、一方にはクラシック専門の音楽、もう一方にはロック専門を聴かせてみた。

その結果、クラシック温室の植物は、その音源の方へ枝葉を伸ばし、そこに巻き付くものさえあった、逆にロック温室の植物は音源から遠ざかるように枝葉を伸ばしていったという。研究ではさらに、ロックを聴かせた植物は2倍の水を消費し、根の長さもクラシック温室のものの方がはるかに長く育ったとの報告があつて、大きな話題となつたそうです。

僕が注目していたのは、少しジャンルを広げた「生物と音楽」

の関係です。

極端な研究例では、

ナイルワニが、バッハの音楽と単なる雑音を聴かせた時の脳活動に違いがあるのを発見。同じように鳩や魚も聴き分けが出来るという研究報告があるそうです。

鳩には、バッハとストラヴィンスキーを聴かせて、それぞれ異なる鍵盤を突かせる訓練も可能だったという話もあります。身近には、ペットシヨップで、犬や猫の生育にリラックス効果が音楽にはあるという情報は多く見聞します。

何だか、僕の睡眠導入にクラシックが効く、という話に近づいてしまいました。

いや、そんな安易なことをいうつもりはありません。

実は過日、NHKの放映で、ダーウインの進化論を超える研究が映像で伝えられ、びっくりしました。ご覧のご同輩も多かろうと思いますが、

その番組「超進化論」。

地球上の生物で、植物は他を圧倒する九十五%の量を占めながら、ほとんど不動のため、人間からは生物であることを忘れがちな存在になっている。ところが、痛みも感知し情報のやりとりも行って、大きなネットワークも築いて、バクテリアや昆虫たちとも共生しているという。我々人間が知らなかったもっと広い世界を生きている。そうしたことが、映像で見取れるように明るみになってきたのだ。

僕が、ここで期待したのは、

いつの日か、「生物と音楽」(何もこのことだけに限ったことではないが)の関係がつぶさに明るみにされ、その応用が人間界に飛躍的な効果や好影響をもたらすようになるのではないかと。